

越中覽古

李

白

越王勾踐 吳も破つて 歸る

義士家に 還つて 尽く 錦衣す

宮女花の如く 春殿に 満つ

只今 惟 鷓鴣の 飛ぶ 有り

【作者】李白(七〇一〜七六二年)盛唐の詩人、杜甫(とほ)と並び称される。蜀(しよく)の錦州彰明県青蓮郷(きんしゅうしょうめいけん せいれんきょう)の人で青蓮居士(せいれんこじ)と号した。幼にして俊才、劍術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より 四十四歳まで

玄宗(げんそう)皇帝の側近にあり、後再び各地を転転とし多くの詩をのこす。安祿山(あんろくさん)の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。六十二歳、病のために没す。奔放で変幻自在な詩風から、後世『詩仙』と称される。

【語釈】*越 中：越(えつ)の国で浙江省(せつこうしょう)紹興(しょうこう)市・春秋時代 越の国の国都(会稽 かいけい)があった

*破 呉：越王勾踐が前四九四年呉に破られて会稽山にかくれ長い間辛苦艱難(しんくかんなん)をかさねたが 忠臣范蠡(はんらい)が考案した策を用いて遂に呉を破つて呉王 夫差(ふさ)を死にいたらせた前四七七年の戦いの中で「臥薪嘗胆(がしんしょうたん)」の故事を生んだ。

*義 士：呉に破れて、越王勾踐と二十年間苦楽をともした忠義の家臣たち。 *鷓 鴣：南の越の地に多いうずらに似たキジ科の野鳥で「越雉(えつち)」とも呼ばれた、その悲しげな泣き声を人人は「行不得也哥哥(行かないで兄さん)」と聞いたという。 *錦 衣：錦織りの着物。 勝利の恩賞として与えられた

【通釈】越王勾踐が長年の仇であった呉王夫差(ふさ)を打ち破つて国に凱旋した。あと、その戦いに従つて行つた 忠義な者たちは故郷に帰るとみな錦織りの服をまとつて華美な生活にふけた。(一説に「故郷に錦を飾る」がある)そのころ、宮廷の女官なども美しい人が多く、まるで花が春殿に満ちていると思えるほどであった。しかし、今では、当時をしのぶよすがもなく、ただ鷓鴣の声だけが、寂しく、飛び交っているばかりである。